

東日本大震災からの地域づくり ～小さな居場所の大きな野望～

キャンナス東北
コーディネーター・作業療法士
野津裕二郎

本日の報告

キャンナス東北の居場所づくり
牡鹿半島の循環

2080



人口3,000人弱

産業:水産業

医療・介護:病院1

診療所1

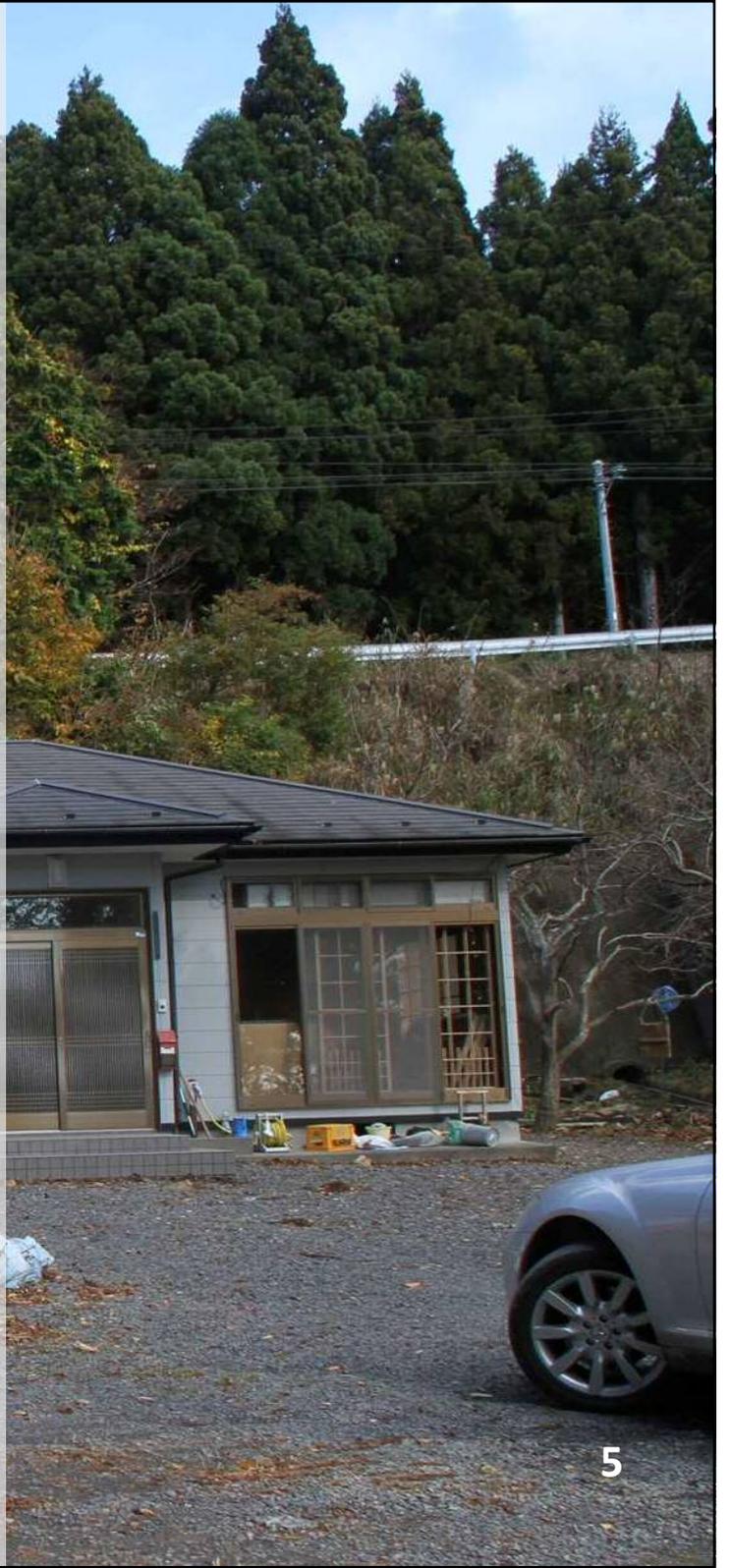
特養60床

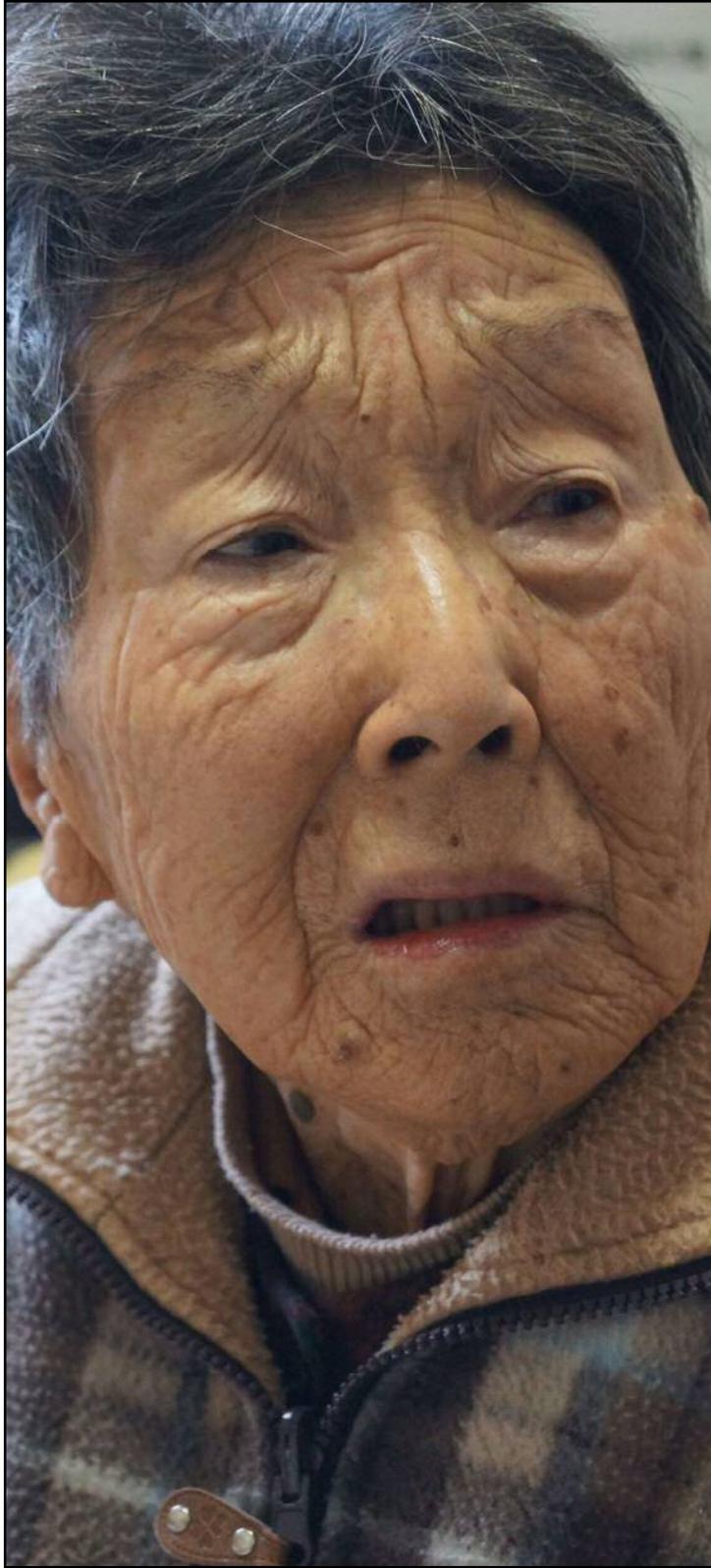
小規模デイ1

震災被害

- ・介護保険事業所閉鎖
- ・全ての漁港ほぼ壊滅
- ・公民館閉鎖
- ・仮設住宅500世帯
- ・若者流出

暮らす





出金心



コミュニティの状態が個人に及ぼす影響

心身機能

- ・精神的落ち込み
- ・体力低下
- ・膝痛、腰痛などの悪化
- ・認知面の悪化
- ・筋力低下

活動

- ・閉じこもり傾向
- ・運動量が減少
- ・ADLレベル低下
- ・余暇活動が行えない

参加

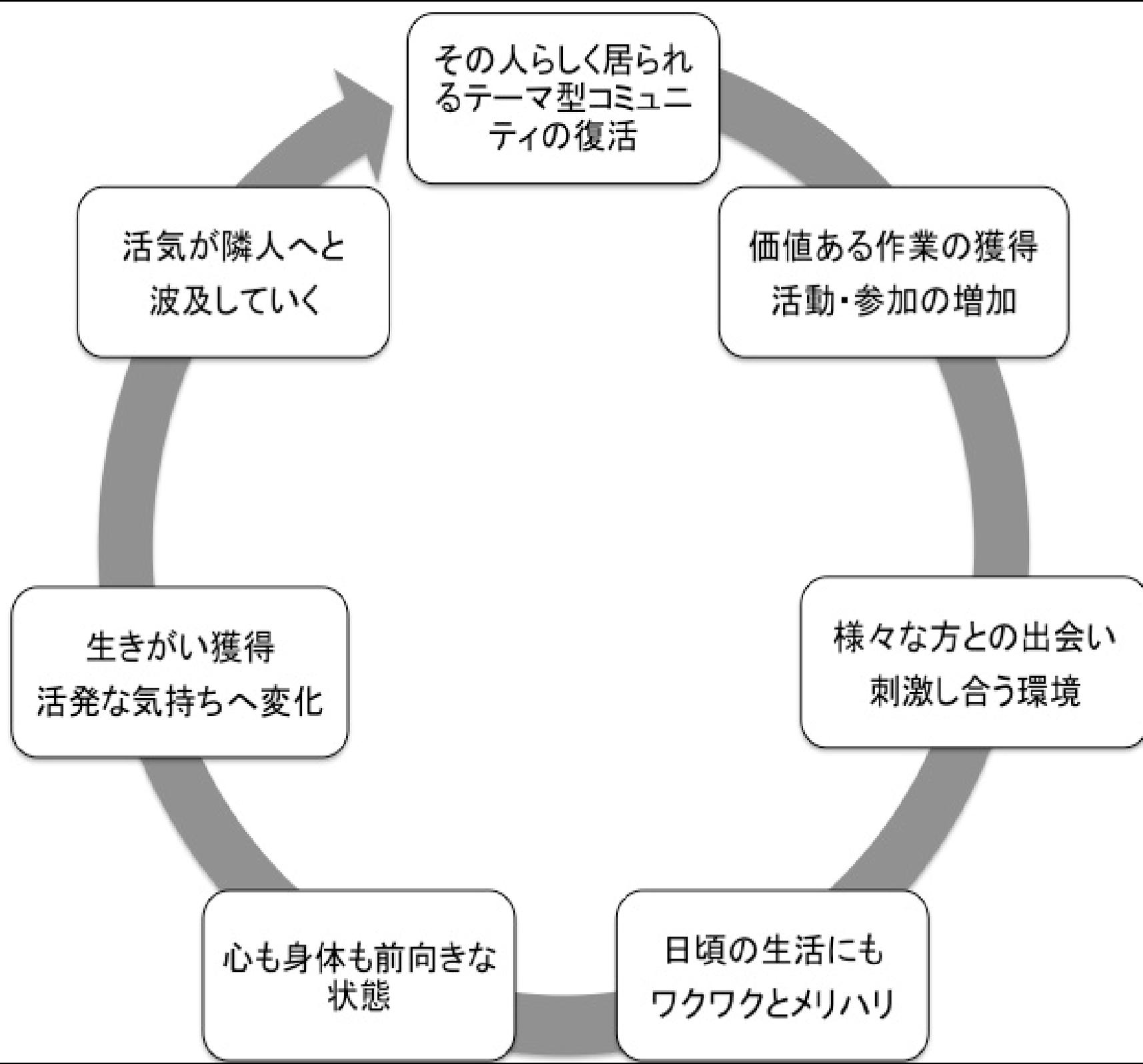
- ・習い事減少
- ・外出頻度の減少
- ・趣味活動の減少
- ・仕事の喪失・引退
- ・他者との交流機会の減少
- ・家庭や仕事という役割の喪失

環境(物理的・人的環境)

- ・3,000人弱 ・知らない地域での生活
- ・度重なる改修工事 ・勝手の違う自宅空間
- ・高齢者率40%以上 ・要支援者の増加
- ・家族や仲間が亡くなった ・漁船が流された
- ・公民館など集まる空間がなくなる ・畑の塩害被害
- ・介護保険事業所の閉鎖
- ・応急仮設住宅と在宅へ空間が分かれる
- ・支援者の格差(仮設住宅と在宅)
- ・訪問系のサービスが受けづらい地域もある
- ・トイレや風呂場の形状が合わない

地域性

- ・引っ込み思案な方が多い
- ・畑作業をしていた方が多い
- ・漁師や元漁師が多い
- ・田舎特有の地縁社会
- ・浜を越えるとライバル意識の
ような雰囲気
- ・違いを好まない雰囲気
- ・同じ浜同士での助け合いはある
- ・同じ浜同士の繋がりはとても強い



地域の居場所をつくる

2011年12月 おらほの家



居場所の3つの軸

- 集落・行政区を越えた居場所
- 何歳でもワクワク出来る居場所
- 1人1人が作り上げていく居場所

居場所づくりの2つの方法

その方の人生のストーリーを聴く

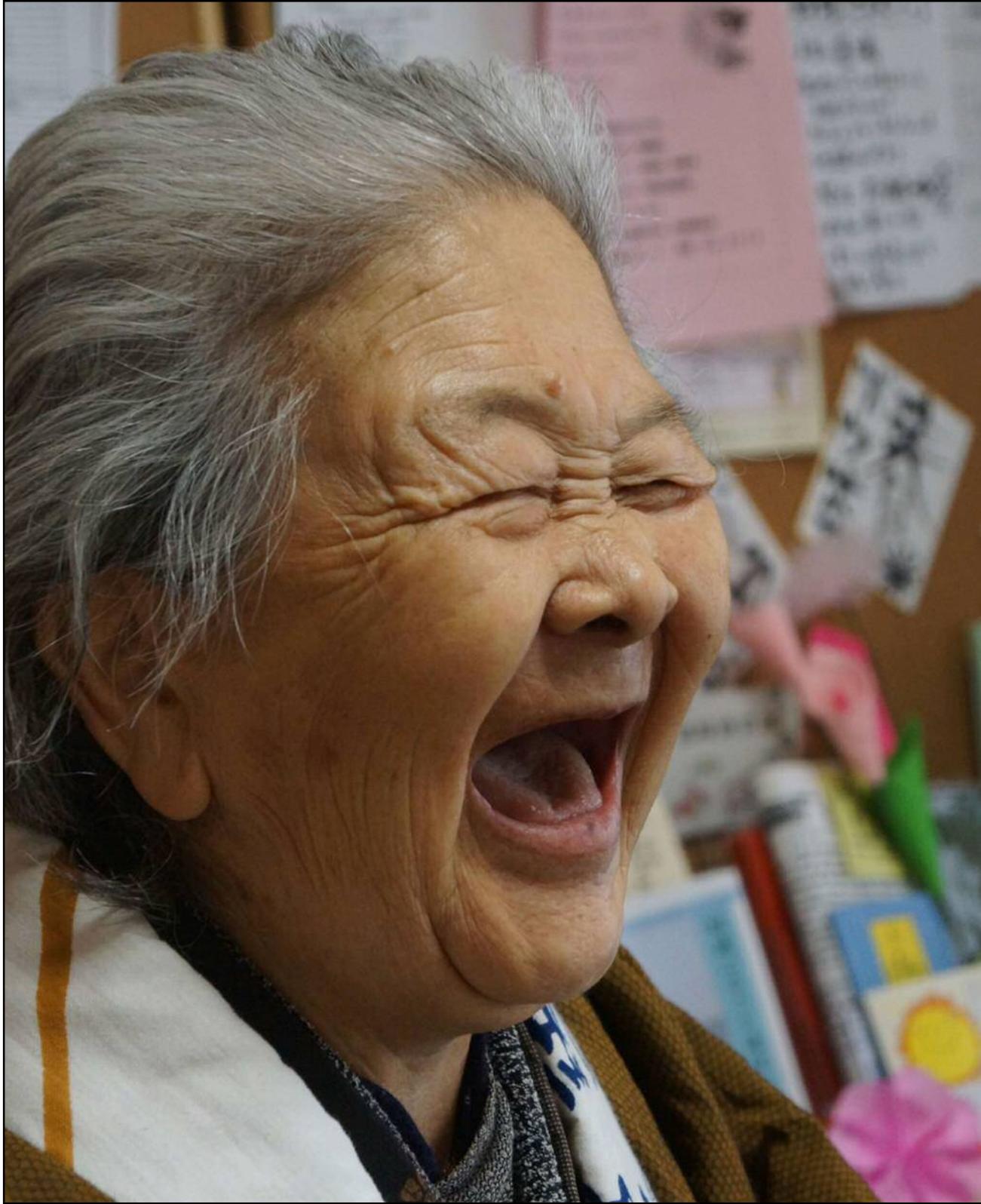
その地域のストーリーを知る

今までしていた
大切な作業・役割



「その人らしさ」の集合体





地域の「鍵」は
目の前のその人にしかない。
地域の「鍵」は
地域の小さき声に詰っている。

「全浜で居場所をつくりたい。」

地域のキーマン

地域が立ち上がる

2014年(4月)

住民互助組織「寄らいん牡鹿」
設立



広がる居場所



観光と繋がる



障がい福祉・産業と繋がる

誰しものが光輝く地域へ

牡鹿の鍵はじいちゃんばあちゃんが握ってる。
じいちゃんばあちゃんが光となる時、
地域は輝きだす。

実は元々光っていたその存在。

僕らが光に気付かない眼になっていただけだ。

小さき声を聴く事を忘れた地域は、徐々に光りも
消えていきます…。

僕らは、ありのままの光に触れて、共に歩む。



ご清聴ありがとうございました